

# ウムチョ ムゥイーザ通信 No. 23

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

## 「ADESOC」報告 ウムチョムゥイーザ学園 2009.6.18 チャールズ校長より

### 【今までの経緯】

1959年に王国がなくなり、1962年にベルギーから独立し、その際王様をはじめ多くのルワンダ人が国外へ難民として逃れて行きました。そして1990年頃から、ウガンダから難民として国外へ脱出した人々がルワンダでの地位を求めて組織的に再入国を果たそうという動きが活発になってきました。その影響を受けて国内では、世論が暴力的に二分されつつ内戦に発展しかねない状況が生まれてきました。

そのような状況のなか日本人の協力を得てこの教育活動は1992年に始まりました。1992年にADESOCが発足しました。なぜ日本人の協力があったかといいますと、青年海外協力隊でルワンダに派遣されていたなつみさんとルイズが出会ったことから始まりました。ADESOCの発足当時すでにルイズはなつみさんとガチュリロという技術専門学校で働いていました。当時は、私立を設立するのはルワンダ人の視野には入っていない考えでした。1993年には、初めての学校をギセニで作りました。コレージュ・センポール・ギセニと名づけました。中学校を中心とした中高を目指す学校でした。センポールというのは、変わるという意味を持っていて、ルワンダには変わらなければならないという状況があったからです。戦争の真っ最中から戦争による様々な困難その混乱から子供たちを救うことを目的としました。1994年4月大統領の和平協定調印帰国の飛行機が何者かによって墜落させられそれを合図に始まった約100万人と言われる虐殺が始まり、この学校は爆撃によって破壊されてしまいました。その後キガリに建設した幼稚園・小学校のウムチョムゥイーザ学園は、この内戦虐殺で傷ついてしまった子供たちに教室で学ぶことによって立派な社会人になってもらおう、人権を守る社会人になってもらうことを目的としました。



### 【学園の自立へ向けて】

世界を脅かしている経済問題がルワンダにも深刻に影響していることや教育指導言語がフランス語から英語に変わったことにめげずに目標をしっかりと持ってウムチョムゥイーザをルワンダで誇りを持った教育にしてゆきたいと思います。日本語を話せるマリルイズのおかげで多くの日本人とのパイプ役によりこの夢が着々と実現していくことを信じています。ウムチョムゥイーザを平和なルワンダの社会を支えていく人材を育成するピックスクールにしていきたいと思います。今の教育言語の変更により私達の志気を下げるのではなく、逆に私達の勇気を強めてくれるきっかけにしてゆきたいと思います。

あらゆる努力をし、短い期間に英語で教育をするルールに乗って行きたいと思います。ウガンダから二人の先生を雇いました。そして今までいた先生方の研修に取り組んでいます。世界経済の悪循環は、私達みんなに冷たい強い風のように当たっています。しかしあきらめるつもりはありません。

政府から提供を受けた1.5ヘクタールの土地で将来は日本のような技術学校を予定しています。そのために以下の事を予定しています。

1. 学校としての校庭を整地してスポーツ環境を整備する。
2. ICT技術を充実させる。

教師の研修とパソコンの購入。ルワンダ国内では、パソコンの導入が進められています。

1台約2万円で購入できるよう国がサポートするプログラムが始まりました。

3. 土地の境界線にくいをうちフェンスで囲む。

防犯対策により建築資材の維持確保とそれによって本格的に農業を行う。中学校建設を進めると同時に野菜や果物を収穫し販売できるようにする。

4. 現在ルワンダは小・中学校9年間の義務教育制度を開始しました。

3年後には15歳から18歳の13万人の若者が高校教育をめざすでしょう。

5. その準備には建物や人材が必要です。日本からの教師派遣が可能でしょうか。そのためにはJICAとの正式な交渉を経て実現したいと考えています。

6. 技術学校を作るために資金が必要です。

そのために収入を得るためのプロジェクトを立ち上げます。

7. 車を活用すること。

車は建設時の重要な時に日本から送られてきて遠足などにも役立てる事が出来ました。

200万ルワンダフランがあれば全部の車の必要な修理をすることができます。そうすると新車を購入しなくても歴史のあるこの車を使用する事ができます。

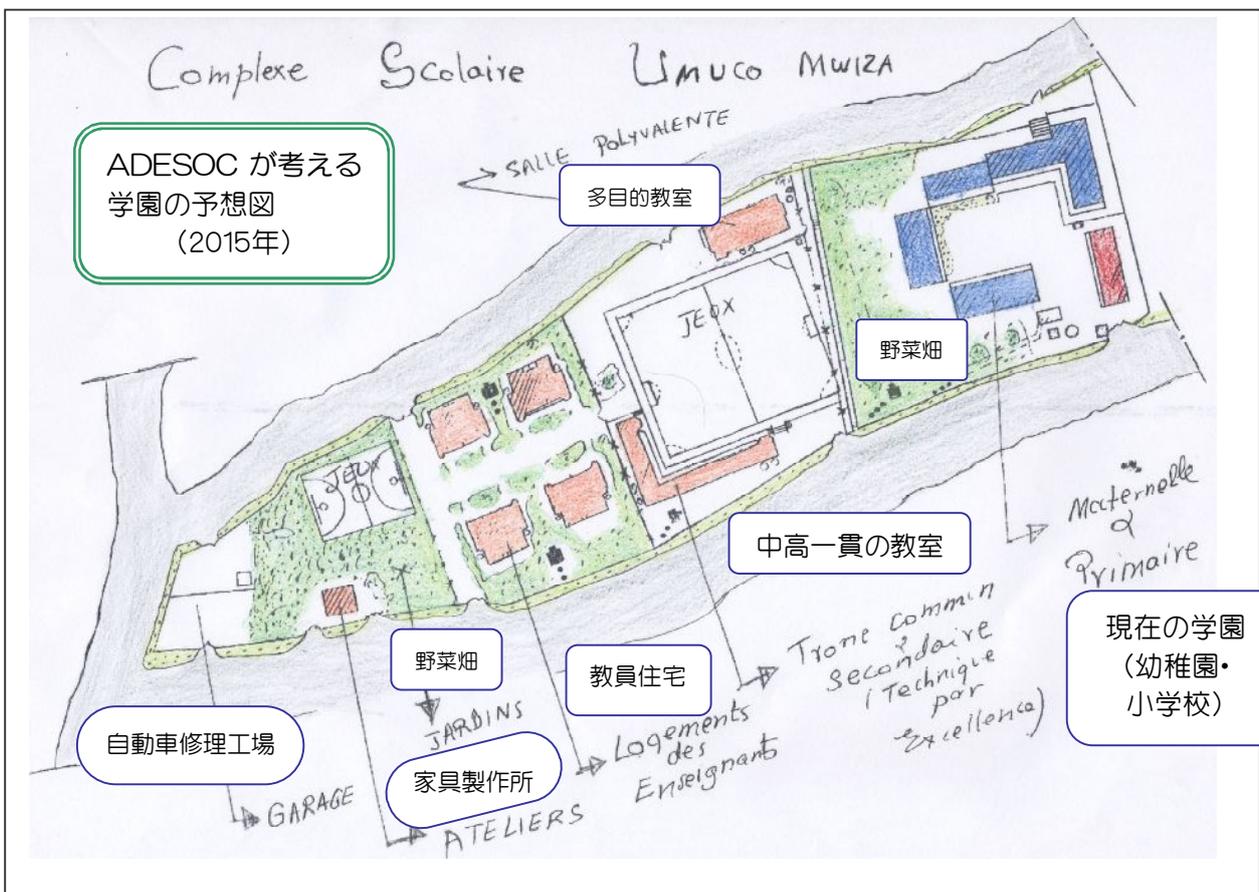
〔最後に〕

みなさん一人一人に感謝したいと思います。

世界の経済危機のなかにあっても、皆様が手をさしのべて、現在まで学校建設や貧しい子ども達への学費の援助をとおして大事な仕事を進められたことに感謝しております。

これからもよろしくお願いします。

ADESOC の総会を8月か9月に予定しています。マリールイズも参加できることを願っています。



ウムチヨムィーザ学園の2009年度1学期（1月11日～4月6日）の会計報告

2009年度（1学期）の学費の納入状況の報告

2009.4.15

単位:人 \*時価換算による。単位:円

納入 状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
100%	3	12	11	15	19	20	27	26	16	149人	1,137,538
その他	2	7	1	6	6	5	6	11	9	53人	229,670
0%	2	8	5	5	10	8	10	14	7	69人	0
合計	7	27	17	26	35	33	43	51	32	271人	1,367,208
予定額											2,068,944
不足金額(日本からの支援額)											701,736

〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額
学費	1,367,208	職員への給料	1,385,521
日本(考える会)からの支援	971,738	光熱水費	45,524
入学登録料	41,735	通信費	18,643
バス運行収入(故障中)	0	印刷・消耗品	87,216
水販売収入	2,407	車の維持費	62,975
野菜収入	8,483	会議・研修費	124,350
個人寄付	0	家畜の維持費	23,718
NGOからの寄付	0	野菜の肥料や子どもの保健薬品	125,119
		備品	16,966
		借金返済	177,152
		予定外支出(交際費等)	58,616
		税金	147,021
合計	2,391,571	合計	2,272,821
		残金	118,750



- ① 教育言語がフランス語から英語へ変更になったことに伴い、児童数が72名も減りました。そのうえ学費が払えない児童が31名増えました。
- ② 当学園では、貧富の差に関係なく先着順で受け入れていますので、これからも支援をよろしくお願ひします。
- ③ 今後さらに英語研修に励み魅力ある学園にしていきたいと努力してまいります。
- ◎ ようやく文部省から中学校建設の許可証(左記)が届きました。2010年には小学校の空き教室を利用して中学校をスタートし、その間に文部省の設置基準を満たす中学校を建設し、2011年には中学校の校舎に生徒を迎え入れたいと計画しております。

## ルワンダ・レポート2—大人も勉強する！

### ウムチョムウイーザ学園とルワンダの教育事情

元 JICA ルワンダ派遣理科教育短期専門家 廣瀬桂子

「アフリカの教育」というと、まず、アフリカの子供たちの就学率の低さを思いつき、「大人の向学心」にまで思いが及ぶことは少ないのではないのでしょうか。そこで今回は、私が出会ったルワンダの人たちの「学び」の姿勢を紹介したいと思います。



#### 「フランス語」から「英語」へ

ルワンダでは、現在、教育言語がフランス語から英語に転換されつつあることは、すでにご存じのことと思います。この動きは、子供や学校現場に限った事ではありません。社会が英語化するのを見込んで、大人も英語の勉強に動き出しています。英語の習得はビジネスチャンスや仕事の昇進につながるからです。私が滞在したアパートの門番は、英・仏、そして現地語のキニアルワンダ語の3ヶ国語の日常会話集を持っていて、仕事の合間に目を通していました。私も、時々、引きとめられて英文の読み方を聞かれたものです。

英語を使える人は、特に観光業や外資系の仕事では優遇されていました。私の運転手は英語を話せたので、日本人関係の仕事がコンスタントに入っていたようです。彼は、週末にも仕事を入れ忙しくしていたので聞いてみたら、奥さんや子供の教育費にお金が掛かるので少しでも多く仕事をしたいのだというのです。奥さんは小学校の教員ですが、教員資格を上げるために夜間大学に通っていました。また、2人の小学校低学年の子供を、学年末の長い休暇には英語学校に通わせると言っていました。彼自身は、当時の国情もあって、中学校しか出ていません。「奥さんと子供の教育が終わったら、あなた自身ね」と言ったら、「そうなるといいですね」と照れながら答えました。

#### 自己実現の手段としての「学び」について

進学の動機が何であれ、獲得した知識は何らかの形で社会と共有できるものです。48歳のF夫人は、小学校の事務員をしながら夜間大学に通い、法律を学んでいました。夫は同じ学校に勤める教師です。家には生まれたばかりの子供がいる次男夫婦と、未婚で小1の娘がいる長女が同居していました。この長女は、娘を実家に預け、ルワンダの名門ブタレ大学で農学の学士号を取得しました。次男は、私が出会った時は運転手をしていましたが、今年になって大学の工学部に進学したそうです。先の運転手の妻の例もそうですが、志あれば「学び」の機会が年齢や立場によって制限されないということは素晴らしいと思いました。

親戚や友人、知人をも「家族」として受け入れ、子供がいればみんなで世話をするといったアフリカではよくみられる「緩やかな大家族」がこうしたことを可能にしているように思います。しかしいくら周りのサポートがあるからといっても、Fさんのように大家族を取り仕切る立場にいる主婦が、外ではフルタイムで働いた後、大学に行き夜の10時まで授業を受けて帰宅するという生活は、大変なことに変わりありません。その上、フランス語で教育を受けてきた彼女が、慣れない英語で講義を聞きレポートを書くわけです。当然ながら、「容易ではなかったわ」と、卒業を目前にしたFさんはため息をもらしました。しかし、大学で学んだ内容に話が及ぶと、「卒業したら、近所で法律講座のようなものを開きたいと思っているの。もちろん、ボランティアでね。私の周りには、法律を知らなくて損をしている人、特に女性がたくさんいるから」と目を輝かせました。



自己実現の手段としての「学び」の人気は、古今東西を問わず、アフリカでも健在です。

ところで、アフリカでは、Fさんのようなパワフルな女性によく出会います。パワフルなアフリカ女性。そう、実は、Fさんはマリールイズの実のお姉さんなのです。

## 大好きなルワンダのサポーターとして

### ウムチョムウイーザ学園とルワンダの教育事情

元 JICA 青年海外協力隊隊員 葉山裕記

ルイズさんとの出会いは、私が青年海外協力隊として派遣される前の訓練の頃です。これからルワンダに渡り二年間の活動を始める私に、ルイズさんが「ルワンダの力になってくださって、ありがとう」とおっしゃったことを、はっきりと覚えています。この言葉で、それまでであった不安が消え、ルワンダへ行くことの決意に自信を持つことができるようになりました。

ウムチョムウイーザのチャールズ校長は、きっとお互いそう思っているように、私のルワンダの「家族」です。ルワンダに着いてはじめての一ヶ月は、キガリのチャールズ校長のお宅でホームステイをしながら、キニヤルワンダ語とフランス語の勉強をしました。地方の任地での生活が始まってからも、休暇の度にそこに帰っていたのですが、いつも温かく迎えてくれました。私が二年間じっくり任地に腰をすえて活動に専念できたのも、ルワンダの中にこうして「帰る」場所があったからだと思います。

私の活動は、ルワンダ東部キブンゴの工業高校での建築技術の指導で、主に設計製図の授業を担当していました。しかし、赴任した当時の学校では、予算不足・人材不足から、設計製図の時間割はあるものの指導できる先生がおらず、なんと自習の時間となっていました。何かを作る前にそれを図面化したり、図面を読み取ったりする力は、技術者としての基礎力で、また「ものづくり」の基本です。「生徒が技術者として立ち立つるのに必要な設計製図力を身につける」ことを目標に、活動をスタートしました。



しかし目標は定まったものの、困ったことに、当初学校には製図室も製図台も、製図道具すらありませんでした。いきなり出鼻をくじかれてしまったわけですが、そんな頃、ひとつの衝撃的な光景に出会います。私は学校の中の教員宿舎に住んでいたのですが、ベッドに入っても何故だか全然寝付けなかったある日、明け方頃になって、気分転換に外の空気を吸いに散歩に出ることにしました。まだ日の出前の薄暗い校内を歩いていると、校舎の外壁に取り付けてある蛍光灯の下に人影を見つけました。こんな時間に誰かに会うとは思っていなかったので、一瞬ぎょっとしたのですが、

人影はひとつではなく、近づいてみると、なんと生徒たちが集まって勉強しているのです。 「蛍雪」という言葉がありますが、決して恵まれているとは言えない環境の中で一所懸命頑張る彼らの姿に、私は心を動かされ、「本当に彼らの力になってやりたい」と強く思いました。この出来事が、私の活動の原動力となりました。

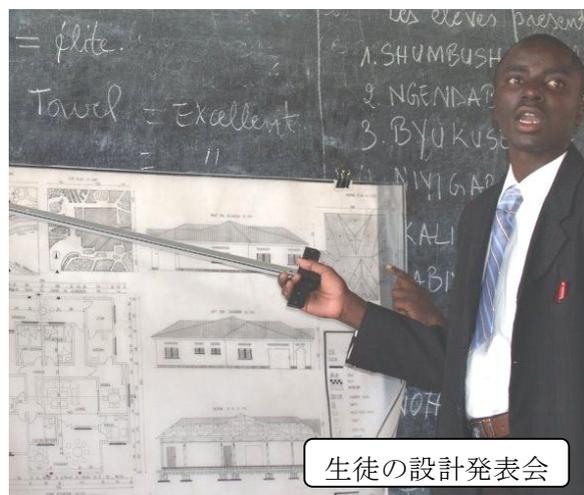
その後、私も創意工夫で、学校の設備不足という困難に立ち向かい、克服していきました。例えば製図台の不足は、発想を変えて、基礎的な段階では教室の机の上でも行えるサイズの課題を作成し、発展課題で大きな図面を描くときには、食堂の大机の上で製図をしました。製図道具も首都キガリの街中の文具屋を探し回って整備をすすめ、手に入らないものや高価で学校の予算で購入できないものは、生徒と一緒に自作しました。また、身近な材料を用いた実験や模型制作も授業に取り入れるなど、総合的に生徒の理解力を高める工夫をしました。そうして生徒たちも徐々に力をつけ、初めは製図の線の引き方さえ知らなかった彼らが、最終的には自分の家を設計できるレベルに達し、各生徒がその図面と模型を完成させることができました。



ストローを用いた構造実験



生徒の自作模型



生徒の設計発表会

私が生徒たちの成長を見て実感したように、きっとルワンダ全体で考えても同じだと思いますが、努力を惜しまない彼らは、多大な可能性を秘めています。そこに財政面や人材の不足という障壁が立ちはだかっていただけで、何かきっかけさえあれば、それを乗り越えて、一気に成長してしまうんだと思います。私が活動を通して、わずかながらその力になれたことを大変うれしく思っています。今年の1月に任期を終えて帰国しましたが、これからもずっと大好きなルワンダのサポーターであり続けたいです。



# 2008年度決算報告

2009年5月17日(日)に福島市市民会館にて、総会が開催されました。

ここに2008年度の決算を報告いたします。

皆様の支援のおかげで、ウムチョムウイーザ学園で343人が学ぶことが出来ました。2008年末には2回目の卒業生26名を送り出すことができました。全員国家試験に合格し、各地の中学校に入学することが出来ました。

現地「ADESOC」を支援する団体「ルワンダの教育を考える会」として中学校建設支援及び貧しくて進学を諦めざるをえない子ども達を将来にわたって見守り支援していきたいという方針を採択しました。

1994年の内戦を体験したマリールイズの「教育は平和と発展の鍵！」の思いが、本会の活動となり、日本各地で「平和の尊さ、命の大切さ、教育の重要性」に賛同していただける輪が広がっていることに感謝して、共に自分に出来ることを一歩ずつ歩いていきたいと思います。これからも、子ども達の夢の実現のために可能なことを続けてゆきたいと思えます。ご理解のうえどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 【収入の部】

項目	金額	備考
事業	3,545,495	講演65回・民芸品販売等
会費	810,000	正会員 5000円×76人 賛助会員 10000円×43人
補助金	0	
寄付金	6,688,717	1円から毎月25万円まで支援を続けてくださる皆様の気持ち
雑収入	2,880	銀行利子・税還付等
繰越金	2,967,227	
計	14,014,319	

## 【支出の部】

項目	金額	備考
事業	6,520,634	学園への援助・民芸品の仕入れ
管理	4,714,393	家賃・給料手当・通信費等
計	11,235,027	

## 【残高】

2,779,292円を2009年度へ繰り越します。

## 2009年度役員紹介

理事長 高橋啓子

副理事長 マリールイズ

理事 倉持睦子

理事 斎藤照子

理事 遠藤信子

理事 宍戸なつ美

理事 大河原伸

理事 佐藤俊子

監事 大和田紋子

スタッフ 菅野和美

原則として火水木曜日

午前10時～12時事務所勤務

# ルワンダデー・イン ふくしま

夏のJAZZピアノコンサート  
7月25日(土)三春町「まほら」  
7月26日(日)福島県文化センター開催決定



河野康弘



こころとこころのハーモニー

地球人として感じてもらえるひと時  
たくさんの方々とお会いできるこ  
とを楽しみにしております。



## ☆各種振替口座番号のご案内です!☆

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

ホームページ  
からの募金も  
受付中です

ソーラー発電…ソーラー発電機を増やし、電力の確保をしたいと考えています。

郵便振替口座：02200-2-77634

加入者名：ルワンダ ソーラー発電P

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる  
方を随時募集しています。(イベント開催時の半日でもOKです。)  
よろしくお祈りします。

HELP

### —編集後記—

発展途上国の子どもの貧困を援助  
することで、一人ひとりの「人生の社会  
保障」を充実させ、将来大人になってか  
らの社会に与える影響は計り知れないと  
言われます。

ルワンダの青い空がいつまでも  
続きますように祈ります。



### ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子

副理事長 かハング・マリルバ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目 8-20

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: [info@rwanda-npo.org](mailto:info@rwanda-npo.org)